

平成 24 年度 (2012)

慶應義塾大学入学試験問題

商 学 部

世 界 史

- 注 意
1. 受験番号と氏名は、解答用紙 A (マークシート) と解答用紙 B のそれぞれ所定の欄に必ず記入すること。さらに、解答用紙 A (マークシート) の受験番号欄をマークすること。
  2. 解答は、必ず指定された解答用紙の所定の欄に記入ないしマークすること。解答欄外の余白および採点欄には一切記入してはならない。
  3. 解答用紙 A (マークシート) への記入に先立って、用紙上に記載された注意事項を必ず読むこと。
  4. 解答用紙 A (マークシート) の解答欄にマークするときには、すべて HB の黒鉛筆を使用し、また、次の解答例に従うこと。

(解答例)  と表示のある問いに対して、3 と解答する場合は、右に示すように解答欄  の ③ にマークすること。

なお、2 桁の数字の場合には、以下のようにマークすること。

例えば、空欄   の解答が 3 6 の場合、解答欄  の ③ にマークし、解答欄  の ⑥ にマークする。

5. 問題用紙は下書きに用いてよろしい。
6. この冊子の総ページ数は 8 ページである。

(12)



試験開始の合図とともに全てのページが揃っているか確認してください。ページが抜けていたり重複するページがあったら直ちに監督者に申し出てください。

《指示があるまで開かないこと》

## I. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

商学部の基幹科目の一つである「商業学」では、商活動について詳しく学ぶが、ヨーロッパとアジアを結ぶ重要な航路であった「海の道」の歴史を探ると、この商活動の発展が都市や国家の繁栄と強く関係していたことがよくわかる。以下、その点を中心に振り返ってみよう。

まず「海の道」とは、地中海から紅海やペルシャ湾をとおり、アラビア海をわたってインドに達し、さらに東南アジアや中国にいたる海路のことであり、地中海東岸からイラン高原北部、東西トルキスタンをとおり洛陽・長安を結ぶ (1) (2) と並び、東西の交易ルートとしての役割を果たした。「海の道」が発展するのは、8世紀に東アジアの唐、西アジアのアッバース朝という二大国が栄え、それぞれの都である長安と (3) (4) を結ぶ陸と海の貿易が盛んになってからである。そして中国経済の中心が江南地方に移り、大量物資を運べる海上輸送の比重が高まると「海の道」の重要度が上がっていった。

当初「海の道」での商取引は主としてダウ船を操る (5) (6) によって行われていたが、10世紀ごろからジャンク船を操る (7) (8) が参画し、インドの海沿いや東南アジアのマラッカ海峡、インドシナ半島南部で (9) (10) 貿易が行われるようになった。そしてその貿易の拠点を中心に数々の都市や国家が繁栄していった。

たとえば、<sup>(a)</sup>ジャワ島では10世紀に豊かな農業基盤と胡椒をはじめとする<sup>(b)</sup>香辛料貿易によって栄えた (11) (12) が成立し、その繁栄は13世紀前半に成立した (13) (14) に受け継がれた。その後13世紀末には、元軍を撃退してジャワ島の内陸部に中心をおく (15) (16) が成立し、農業生産を貿易に結びつけて発展し、東南アジア海域の貿易をにぎりジャワ島からスマトラ島東海岸にまで支配を拡大した。

マレー半島では15世紀に<sup>(c)</sup>マラッカ王国が成立した。マラッカ王国は鄭和の艦隊が寄港したことを契機に明との関係を強めていたが、明の力が衰えると (17) (18) に改宗して東南アジアにおける一大勢力となった。マラッカの発展に伴いジャワ島北岸での貿易も発達した。16世紀末には (19) (20) がジャワ島東部に建てられ、米の供給で力を持った。

このように海上貿易で潤う国家が出現する反面、海上貿易が閉ざされることで衰退するケースもあった。たとえば10世紀から11世紀にかけて航海技術が発展し、中国南部の港を出発した船が現在のベトナム中部まで一気に南下できるようになると、7世紀に (21) (22) が置かれ栄えていたベトナム北部は海の道の要衝としての地位を失い衰退した。

また12世紀前半、 (23) (24) のもとで強大になった<sup>(甲)</sup>アンコール朝は、メコン・ (25) (26) 両川流域からマレー半島にまで進出し、南シナ海とベンガル湾を結ぶ貿易路をおさえ繁栄したが、海上貿易が拡大すると、都を内陸に構えたアンコール朝は物資を十分に調達できず急速に衰えた。さらに<sup>(d)</sup>ビルマではトゥングー朝が海上貿易の拠点となった (27) (28) に首都を置き、16世紀後半には交易からの利益を背景として勢力を伸ばしたが、首都が交易ルートからはずれると同じく衰退していった。

このように、商活動は国家の発展や衰退と深く関連している。商学部に入學したら、是非そのような視点で「商業学」を学んで欲しいと思う。

問1 文中の空欄 (1) (2) ~ (27) (28) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A (マークシート) の解答欄 (1) ~ (28) にマークしなさい。

- |               |                |               |            |
|---------------|----------------|---------------|------------|
| 11 アチェ王国      | 12 アレキサンドリア    | 13 安南都護府      | 14 イスラム教   |
| 15 イタリア商人     | 16 イラワディ       | 17 ヴェニス商人     | 18 オアシスの道  |
| 19 カイロ        | 20 ギリシア商人      | 21 キリスト教      | 22 クディリ朝   |
| 23 ゴール朝       | 24 三角          | 25 ジャヤヴァルマン7世 |            |
| 26 シンガサリ朝     | 27 スールヤヴァルマン2世 | 28 単于都護府      |            |
| 29 草原の道       | 30 ソンコイ        | 31 チャオプラヤ     | 32 チャンパー   |
| 33 中継         | 34 中国商人        | 35 朝貢         | 36 哲学の道    |
| 37 ドヴァーラヴァティー |                | 38 パガン朝       | 39 バグダード   |
| 40 バフマン朝      | 41 バンテン王国      | 42 ヒンドゥー教     | 43 仏教      |
| 44 ペゲー        | 45 北庭都護府       | 46 マジャパヒト王国   | 47 マタラム王国  |
| 48 マニ教        | 49 マリンディ       | 50 ムスリム商人     | 51 モノモタパ王国 |
| 52 ラタナコーシン朝   | 53 ラームカムヘーン王   | 54 倭寇         |            |

問2 下線部 (甲) について、アンコール=ワットは当初 (あ) の寺院として造営されたが、のちに (い) の寺院になった。(あ) と (い) に入れる語の組み合わせで正しいものを、以下の1~4の中から選び、その番号を解答用紙A (マークシート) の解答欄 (29) にマークしなさい。正解がない場合は5をマークしなさい。

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 (あ) ヒンドゥー教 (い) 仏教    | 2 (あ) 仏教 (い) イスラム教     |
| 3 (あ) イスラム教 (い) ヒンドゥー教 | 4 (あ) ヒンドゥー教 (い) イスラム教 |

問3 下線部 (a) について、この島の中部にある世界遺産のうち、(1) 古マタラム王国による造営といわれているものと、(2) ジャイレンドラ朝時代に造営されたといわれているものを、それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問4 下線部 (b) について、当時ヨーロッパで香辛料が非常に高い価値をもっていたのは何故か。その理由を解答用紙Bの所定の欄に30字以内で説明しなさい。

問5 下線部 (c) について、マラッカは(1) 16世紀から17世紀半ば、(2) 17世紀半ばから19世紀初頭、(3) 19世紀初頭以降、に相次いでヨーロッパ列強に占領された。イギリス、イタリア、オランダ、スペイン、ドイツ、フランス、ポルトガルの中から、(1) から (3) の各時代にマラッカを占領していた国を選び、それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

問6 下線部 (d) について、ビルマ最後の王朝は、19世紀初頭まで領土を拡大したが、ある地域への遠征がきっかけで戦争になり、最終的には併合されてしまった。(1) 戦争のきっかけになった紅茶で有名な遠征地域の名前と、(2) 最終的にどこに併合されたのかを、それぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

## II. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

(A) 17世紀前半、「最後の宗教戦争」とも称される (30) (31) 戦争は、(32) (33) 地方の新教徒抑圧に対する反乱から始まり、神聖ローマ帝国における新教派對旧教派の戦いとなった。やがて新教徒保護を名目に新教国デンマークが介入し、神聖ローマ皇帝軍の傭兵隊長 (34) (35) が有利に戦いを進めると、今度は新教国スウェーデンが (36) (37) の覇権をめざして加わり、ついには旧教国フランスが新教派に味方して皇帝軍と戦って、(30) (31) 戦争は国際紛争の様相を呈した。1648年の (38) (39) 条約で戦争は終結し、これによって<sup>(a)</sup>アウクスブルク宗教和議の原則が再確認され、新たに (40) (41) 派が公認された。またドイツ諸侯の主権がほぼ完全に認められ、神聖ローマ帝国は事実上解体した。フランスとスウェーデンはそれぞれ領土を獲得し、15世紀から皇帝位を世襲した (42) (43) 家に対するフランスのブルボン家による優位が決定的となった。またドイツの領邦の多くは戦火によって荒廃し、比較的被害の少なかったものがその後伸張していく契機ともなる。

(B) プロイセンは、中世の東方植民に始まる (44) (45) 領をブランデンブルク選帝侯 (46) (47) 家が併合し、さらに (48) (49) 戦争でオーストリアを味方したことから、1701年プロイセン王国となった。(48) (49) 戦争の結果、ルイ14世の孫の王位継承は認められたものの、フランスの払った代償も小さくはなかった。プロイセンは富国強兵につとめ、1740年に始まる (50) (51) 戦争でシュレジエンを獲得したが、その際、フランスはプロイセンに味方したため、イギリスがオーストリア側について、イギリスとフランスは北米大陸の植民地をめぐる (52) (53) 戦争を始める。その後オーストリアの (54) (55) は、シュレジエン奪回をめざしてフランスと同盟し、1756年プロイセンに対し (56) (57) 戦争を戦うことになるが、北米大陸で再びフランスと (58) (59) 戦争となっていたイギリスはプロイセンを支援した。(56) (57) 戦争の結果、プロイセンはシュレジエンを守り、列強の地位を確立していく一方で、フランスは (60) (61) 条約で北米大陸の植民地を失ったうえ、相次ぐ戦争による戦費調達は、財政破綻を招いてフランス革命の原因となっていく。

(C) 19世紀前半のウィーン体制の下で成立したドイツ連邦は、35の君主国と4自由市から成る国家連合であった。1834年の (62) (63) 同盟は国内の経済的統合を意味するが、政治的な統一国家形成にはまだ紆余曲折を経る。1848年のフランスの (64) (65) 革命は、プロイセンやオーストリアにも波及してウィーン体制は崩壊する。ベルリンの (66) (67) 革命を受けて開かれたフランクフルト国民議会からの提案は、プロイセン王 (68) (69) により拒否され頓挫した。ドイツ統一の論点はオーストリアの取り扱いにあった。プロイセン宰相ビスマルクは、<sup>(b)</sup>オーストリアとの戦争を主導し勝利することで、オーストリアを排除した (70) (71) 連邦を成立させ、次にフランスとの戦争で勝利して、ドイツ帝国を成立させた。初代ドイツ皇帝はプロイセン王 (72) (73) である。敗北したフランスは、ナポレオン3世が (74) (75) の戦いで捕虜になって第二帝政は崩壊した。またオーストリアは、(76) (77) 人のハンガリー王国を認めて、以後、オーストリア=ハンガリー帝国と呼ばれるようになる。

問1 文中の空欄 (30) (31) ~ (76) (77) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A(マークシート)の解答欄 (30) ~ (77) にマークしなさい。

- |                    |                 |                    |              |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------|
| 11 二月              | 12 三月           | 13 三十年             | 14 七月        |
| 15 七年              | 16 十一月          | 17 百年              | 18 アーヘン      |
| 19 アルザス・ロレーヌ       | 20 アルバニア        | 21 アン女王            | 22 イタリア      |
| 23 ヴァルミー           | 24 ヴァレンシュタイン    | 25 ヴァロワ            | 26 ウィリアム王    |
| 27 ヴィルヘルム1世        | 28 ウェストファリア     | 29 オーストリア継承        | 30 オドアケル     |
| 31 カトリック           | 32 カール6世        | 33 カルヴァン           | 34 カルマル      |
| 35 カルロヴィッツ         | 36 北ドイツ         | 37 クリミア            | 38 黒海        |
| 39 ザクセン            | 40 サン＝ステファノ     | 41 シュタウフェン         | 42 シュマルカルデン  |
| 43 ジョージ王           | 44 スペイン継承       | 45 セダン             | 46 地中海       |
| 47 テンプル騎士団         | 48 ドイツ関税        | 49 ドイツ騎士団          | 50 ニュルンベルク   |
| 51 バイエルン           | 52 ハプスブルク       | 53 パリ              | 54 バルト海      |
| 55 ハンザ             | 56 ファルツ継承       | 57 フッガー            | 58 フベルトウスブルク |
| 59 フランツ2世          | 60 フリードリヒ2世(大王) |                    |              |
| 61 フリードリヒ＝ヴィルヘルム1世 |                 | 62 フリードリヒ＝ヴィルヘルム4世 |              |
| 63 ブルガール           | 64 フレンチ＝インディアン  |                    | 65 ベーメン      |
| 66 ホーエンツォレルン       | 67 北海           | 68 マジャール           | 69 マリア＝テレジア  |
| 70 マルタ騎士団          | 71 南ネーデルラント継承   |                    | 72 メディチ      |
| 73 ライプチヒ           | 74 ライン          | 75 ルター             | 76 ルドルフ1世    |
| 77 ロンバルディア         | 78 ワーテルロー       |                    |              |

問2 下線部(a)について、1555年のアウクスブルク宗教和議の原則を、解答用紙Bの所定の欄に30字以内で説明しなさい。

問3 下線部(b)について、プロイセンはオーストリアと何を争って戦争をしたのか、解答用紙Bの所定の欄に50字以内で説明しなさい。

### Ⅲ. 次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

人工衛星から撮影された夜の地球の写真を見たことがあるだろうか。欧米諸国や日本など先進国のほとんどが集中する北半球の陸地が光り輝いているのに対し、南半球の大部分が暗黒に覆われており、エネルギー消費の格差に象徴される南北問題の実態が一目瞭然である。中でも豊かな「北」と貧しい「南」の対照を示しているのが、アラスカからパタゴニアまで南北に連なるアメリカ大陸である。ともにヨーロッパ諸国の植民地であった北アメリカとメキシコ以南のラテンアメリカは、これまできわめて対照的な歴史を歩んできた。

アメリカ大陸の先住民の祖先は、アジアから現在の (78) (79) を経由して渡来したモンゴロイドであるというのがこれまで最も有力な説となっている。1492年にコロンブスが (80) (81) に到着する以前は、北アメリカには狩猟と採集を中心とする文化をもったインディアンが存在していた。これに対し現在のラテンアメリカにあたる地域には、(a) 中央アメリカの (82) (83) や南アメリカの (84) (85) など高度な文明が発達していたことが知られている。ヨーロッパ人が渡来する以前から比較的人口が多かった大陸部ラテンアメリカでは、主たる植民者である (86) (87) 人や (88) (89) 人と先住民や黒人との混血・融合が進んだのに対し、人口が希薄であった北アメリカでは白人と先住民インディアンとの間の融合はあまりみられなかった。

イギリスが北アメリカに有していた13の植民地では、早くから自治的な統治体制が発展していた。とりわけ (90) (91) による農業や商工業が発達していた北部では本国による重商主義への不満が根強く、植民地への増税に対し反英国感情が高まった。こうして1775年に始まった (92) (93) 戦争に勝利して誕生した合衆国は、1812年の (94) (95) 戦争、1861年に始まる (96) (97) 戦争を経て、19世紀末には世界有数の工業国へと躍進した。これに対しラテンアメリカでも、ヨーロッパで (86) (87) が (98) (99) の支配下に入ったのを契機に、19世紀初頭に次々と独立国が誕生した。しかし、ラテンアメリカ諸国の独立を主導した植民地生まれの白人である (100) (101) たちは、植民地以来の大土地所有やプランテーション経営を維持したため、特定の農産物や鉱物資源の輸出に依存する (102) (103) が進行した。このように19世紀のラテンアメリカは、一次産品輸出に特化する形で (104) (105) を中心とする自由貿易体制に組み込まれ、その後の工業化に後れを取ってしまうこととなった。

20世紀に入ると、世界的大国の仲間入りを果たしたアメリカ合衆国のラテンアメリカ諸国に対する優位は明白となった。(b) 合衆国の歴代政権は、モンロー宣言を援用し、圧倒的な軍事力と経済力を背景にラテンアメリカ諸国に対してしばしば高圧的な外交を展開した。第二次世界大戦がはじまると、(c) ラテンアメリカ諸国のほとんどは連合軍として参戦し、戦後に誕生した国際連合の原加盟国となった。しかし、その後1947年の (106) (107) 協定の締結によりアメリカ合衆国主導の集団防衛体制が確立され、ラテンアメリカ諸国も否応なく冷戦構造に組み込まれた。1961年民主党のケネディが合衆国大統領に就任すると、(d) マーシャル=プランのラテンアメリカ版として (108) (109) が、キューバを除くラテンアメリカ諸国との間に締結された。

しかし冷戦の終結後は、ラテンアメリカ諸国の中にも経済力を蓄え、独自の外交スタンスをとる国も出てきた。たとえば2003年のイラク戦争の際には、(110) (111) や (86) (87) がアメリカ合衆国と (104) (105) による強硬な開戦論に追随したのに対し、(98) (99) などが武力攻撃への反対を表明したが、国連安全保障理事会の非常任理事国であったメキシコやチリは両者の間に立ち、ぎりぎりまで武力行使の回避に努めた。また近年、(e) ブラジルの国際的プレゼンスが高まっている。

問1 文中の空欄 (78) (79) ~ (110) (111) にあてはまる最も適当な語句を下記の語群から選び、その番号を解答用紙A (マークシート) の解答欄 (78) ~ (111) にマークしなさい。

- 11 アメリカ=イギリス    12 アメリカ=スペイン    13 アメリカ=メキシコ    14 アンデス文明
- 15 イギリス    16 イースター島    17 「偉大なる社会」計画
- 18 インダス文明    19 ガラパゴス諸島    20 クリオールヨ    21 黒人奴隷
- 22 三角貿易    23 サンサルバドル島    24 シェアクロッパー    25 自営農民
- 26 ジブラルタル海峡    27 進歩のための同盟    28 スペイン    29 中国
- 30 ドイツ    31 独立    32 南南    33 南北
- 34 日本    35 ニューフロンティア政策    36 パナマ
- 37 ハバナ    38 フェアトレード    39 フォークランド諸島    40 フランス
- 41 ベーリング海峡    42 北米自由貿易    43 ポルトガル    44 マゼラン海峡
- 45 マヤ文明    46 マリ王国    47 メスティーツ    48 ムラート
- 49 モノカルチャー    50 輸入代替工業化    51 リオ    52 ロシア

問2 下線部 (a) について、世界遺産にも指定されている、標高約2500メートルの険しい山上に築かれたインカ帝国の都市遺跡を、以下の1~4の中から選び、その番号を解答用紙A (マークシート) の解答欄 (112) にマークしなさい。

- 1 ラピュタ    2 テオティワカン    3 マチュ=ピチュ    4 ナスカ

問3 下線部 (b) について、下の表は20世紀初頭から第二次世界大戦にいたるアメリカ合衆国の各大統領による対ラテンアメリカ外交を整理したものである。空欄 (ア) ~ (エ) に入る語句をそれぞれ解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

外交政策	大統領名
棍棒外交	(ウ) 大統領
(ア) 外交	タフト大統領
宣教師外交	(エ) 大統領
(イ) 外交	フランクリン=ローズヴェルト大統領

問4 下線部 (c) について、国際連合発足時に、五大国の公用語以外で唯一スペイン語が国連公用語に採用されたのはなぜか。解答用紙Bの所定の欄に30字以内で説明しなさい。

問5 下線部 (d) について、アメリカ合衆国にとってのマーシャル=プラン (ヨーロッパ経済復興援助計画) の狙いとは何か。解答用紙Bの所定の欄に25字以内で説明しなさい。

問6 下線部 (e) について、ブラジルに加え、インド、中国、ロシアなど近年高い経済成長を果たし、先進国に次ぐ影響力を獲得しつつある地域大国を総称して何と呼ぶか。アルファベット5文字で解答用紙Bの所定の欄に記入しなさい。

